

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

| | |
|-------|-----------|
| 区 名 | 東淀川区 |
| 学 校 名 | 大阪市立豊新小学校 |
| 学校長名 | 高品 勝年 |

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・豊新小学校では、第6学年 67名

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

今年度の全国学力・学習状況調査は、児童のがんばりが見られた調査であった。特に、国語は初めて大阪市の平均正答率を上回り、また、全国との差もなかった。また、算数でも平均正答率で大阪市の4ポイントまで迫り、問題によっては上回ったものもあった。子ども達は粘り強く問題に取り組み、何とか答えを出そうとがんばる姿が見られた。

これは、各教員が基礎的な内容を重視し、放課後の補充学習等を通して「やりきらせること」「全員理解」を目標に取り組んできた成果であると考えられる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

本校の平均正答率が高い問題：漢字に直す問題・接続語の意味 等

本校の平均正答率が低い問題：理由を問題・内容を説明する問題やまとめる問題 等

〔算数〕

本校の平均正答率が高い問題：グラフを読み取る問題・時刻や時間を求める問題 等

本校の平均正答率が低い問題：図形に関する問題・割合や比に関する問題・わり算 等

国語科では、物事を説明したり理由や根拠を明確にして自分の考えを書き表したりすることが苦手な面が見られる。また、算数科では、全体的に正答率が全国平均に近いものの、図形に関することやわり算を使って求める問いに対して、正答率が低くなる。問題文が難しくなると、正答率が下がる傾向がみられる。

質問紙調査より

現在、児童が意欲的に学習に取り組み“主体的対話的な学び”に近づくよう授業の改善に取り組んでいるところである。質問紙における「友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表していましたか」「自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定的な回答は、それぞれ84.3%・77.2%・81.3%と、すべてが大阪市平均より高く、話し合い活動の充実を通して、本校の児童の学びにつながっていると考えられる。

また、大阪市平均より「朝食を食べている」と答えている児童は高いが、「決まった時間に寝ているか」の問いには5ポイント近く低いことを考えると、生活のリズムが乱れがちな傾向がみられる。

今後の取組(アクションプラン)

以上の結果を踏まえ、国語科では今までの基礎基本の定着に取り組みながらも、理由や根拠を明確にして自分の考えを述べることを授業の第一に掲げ、主体的対話的な学習を進めていくことが必要である。そして、自分の考えを広げたり深めたりすることが大切である。

また、算数科では、基本的な計算や基礎的な事柄をしっかりと習得させることで、児童の底上げを行いたい。特に、わり算の概念を系統性を考えながら教えていくことで、色々な場面での活用力を身に付けさせる。図形の領域では、単に名前や公式の暗記にとどまらず、頭の中で図形をで描いたり動かしたりできるように、具体物の学びから年齢に応じてステップアップできるように学びを深めることが今後必要である。